



2017年6月27日

一般財団法人 CSOネットワーク
代表理事 今田 克司

「伴走評価エキスパート」募集～選考についての総評について

この度は、「伴走評価エキスパート」育成プログラムにご応募くださりまして、誠にありがとうございました。参加定員12名で募集したのに対し、北海道から九州まで予想を上回る33名の方にご応募いただきまして、スタッフ一同、大変嬉しく思っています。「社会的インパクト評価」などの影響もあり、「評価」に関する関心が非営利団体などのソーシャルセクターで高まっており、今後、私どものプログラムを含め、団体に寄り添って評価ができる人材の需要・供給が増大していくことを予感させる出来事となりました。

様々な分野の第一線で活躍され、評価や伴走支援の経験豊富な方も多く、選抜は困難を極めましたが、厳正に選考させていただきました。伴走評価支援先団体の決定をもって参加決定とすることを了解事項とし、16名を参加候補者として選抜しました。今回が初年度ということもあり、今回応募した方に限らず、次年度以降の応募を検討される方もいらっしゃるでしょうから、ご参考となりますように、以下の総評を公開することといたしました。

今回は、(1)書類選考、および(2)面接選考にて、合否を判定いたしました。

(1) 書類選考

本事業においては、日本国内における事業評価・社会的インパクト評価の普及を目的としており、伴走評価による支援先は国内の現場に限らせていただきました。追加の設問もあわせて、国内の現場を持っていることなど基本的な要件を満たしているかを確認しました。加えて、実践ではなく研究を主眼とする方はこの時点で選考対象から外させていただきました。

(2) 面接選考

書類選考を通過した方全員に対して、以下の項目に関しスカイプ面接を実施しました。なお、書類選考の過程で、「この方にはぜひ参加していただきたい」という方には、以下すべての項目をカバーするものではない簡易型の面接を実施しました。

a) 評価や伴走支援の経験・スキル

b) 支援先団体

c) ヒューマンスキル

a) 評価や伴走支援の経験・スキル

本事業の参加には、必ずしも評価経験・スキルを必要とするものではありませんが、実務の経験や、座学・資格などの講習受講の有無、評価関連のいくつかのキーワードを知識としてどのくらい知っているかの確認をおこないました。

また、評価に関する経験以外に、中間支援団体や個人、コンサル、企業、大学などの研究機関等で伴走支援やアドバイスをおこなっている方に、その経験について伺いました。これまで評価業務に触れることはなかったとしても、事業実施団体に伴走支援して来られている方は「伴走評価エキスパート」の適性を保持しているとの考えにもとづいています。伴走者としてどのようなビジョンを持っているか、いかなる内省のもとに日々の業務に取り組んでいらっしゃるか、お話を聞かせていただきました。そのなかで、発展型評価に対する興味・関心や、応募動機との関連について質問させていただいた方も多くいらっしゃいます。

b) 支援先団体

支援先団体については、①支援先団体との関係性、②支援先団体の事業の発展段階、③評価をおこなうことでの波及効果の3つの観点から審査をおこないました。

①関係性は伴走評価の肝であり、そのひとつの判断基準として支援期間や支援先団体に関する知識の質・量を考慮させていただきました。また伴走先団体は自団体も可としたが、ある程度の客観性が担保できていることが評価に影響することを勘案しました。

②事業の発展段階は、事業の初期、成長期、成熟期からの再成長といった段階のどのステージにあるか、また事業のイノベーションの素地がどのくらいあるかという観点を中心に質問しました。この質問は、今回導入する発展型評価のアプローチに、当該事業・団体がどの程度適合するかを判断するための材料としても活用させていただきました。

③波及効果は、支援先団体内への影響にとどまらず、団体を取り囲むステークホルダーや他団体への影響、地域や社会への影響という点も踏まえて判断しました。今回の応募者の支援先候補団体は、NPO等の非営利団体の他に、行政、企業といったセクターもあり、事業規模は数百万円～数千万円が中心でした。活動領域は、アートや被災地支援といった不確実性が高く評価が難しい分野や、地域活性化などが多く見受けられました。これらの支援先候補団体や応募者の方が置かれている状況について話していただくことで、今後数年間でどんな波及効果が期待できるのか、ある程度の判断材料をご提供いただきました。

事前のお問い合わせがあった際にも回答させていただきましたが、支援先候補団体が行政や企業であっても、今回の事業の趣旨から外れるものではありません。ただし、上記の①②③の観点を総合した結果、今回の選考においては、支援先候補団体が行政や企業の場合はハードルが高くなったという結果になったと言えます。

c) ヒューマンスキル

ヒューマンスキルについては、ロールプレイングにより、コミュニケーション力を中心にした関係づくり、雰囲気づくりのスキル、そして限られた時間で実際にどのくらいの情報の質・量を引き出せたかを見る意図でおこないました。もちろん短時間で判断できるものはないと重々承知しておりますが、「伴走評価エキスパート」として持っていて欲しい資質には、「人当たり」の要素が多く含まれるため、実施しました。また、即応性を試す仕様となりましたが、「瞬発力」の高い応募者が高い評点を得たかという点と必ずしもそうとはいえ、よりじっくり構えたり、おっとりとした感じの質問の仕方に関係づくり、雰囲気づくりの高い評点を得た方もいらっしゃいます。

以上、今回の選考の総評として簡単にまとめさせていただきました。本プログラムは来年度も実施予定です。来年度の参加者選抜の選考基準・方法には変更があることも予測されますが、強い意志をもつ多くの方々に興味をもっていただき、次回の挑戦につなげていただければ幸いです。

お問い合わせやご質問がある場合は、以下までご連絡ください。

今後とも、何卒よろしくお願い申し上げます。

「伴走評価エキスパート」育成プログラム

主催・運営: 一般財団法人 CSO ネットワーク

助成: 日本財団

協力: NPO 法人日本ファンドレイジング協会、NPO 法人日本 NPO センター

担当者連絡先:

一般財団法人 CSO ネットワーク

「伴走評価エキスパート」育成プログラム

コーディネーター 千葉 直紀

住所: 新宿区西早稲田 2-3-18 アバコビル 5 階

TEL: 03-3202-8188

E メール: eval@csonj.org